

帰き 佐藤 一郎 いちろう

三鷹市政を新しく!!

地域の声が 原動力

三鷹に密着
6年間の
実務経験

第2号

40歳

元国会議員秘書

こんにちは、私は佐藤帰一郎（きいちろう）と申します。
 地元三鷹の衆議院議員（保守系国会議員）秘書として、三鷹に密着6年間。
 平日はもちろん、土日祝日も日々三鷹市内を駆け回り、伝統の三鷹と新しい
 世代の三鷹の両方を、心にきざんできました。
 今、新型コロナウイルスという未曾有の危機を経て、三鷹は伝統継承も新し
 く始まりかけていた取り組みもどちらも力を発揮できない事態になってきて
 いると思います。
 新しい時代に向けた新しいアイデアの結集が必要です。
 Z世代と平成、昭和世代をつなぎ、市民の町三鷹を、今一度活性化させたい。
 皆さん、一緒に取り組んでいきませんか。



住所：〒181-0012 三鷹市上連雀2-5-20 フチ・ロアジス202号室
 電話：080-6529-0562
 e-mail：taikorugby@gmail.com

プロフィール


地域の声が原動力
 Z世代と平成、昭和世代をつなぐ40歳（1982/昭和57年生まれ）
日本大学第二中学校・高等学校卒業（6年間ラグビー部在籍）
 神奈川大学法学部・大学院（地方自治研究と、イギリス地方分権の研究）
 ロンドン・スコットランド留学（1年3ヶ月）
 保育・幼稚園などの子供事故対策を伝えるコンサルティング会社勤務
 部活動の地域移行を、教員視点、中学生の成長の視点の両方から、正しい発展を目指し、最新理論での指導とい
 じめを許さない体制を目指します。
 都議会議員秘書から政治実務をスタート
 参議院全国比例候補者 畦元将吾（医療者）元秘書
地元三鷹の衆議院議員秘書（～2022年8月まで。三鷹に密着6年）
 三鷹に密着する秘書として活動してきた中で、三鷹の歴史と未来への発展には商工業も欠かせないという思いが
 強いです。中島飛行機の歴史が集積させた高精度な工業という伝統を、三鷹市政を支える軸として捉え、事業発展と
 起業に選ばれる町としての発展を目指します。
 2017年の一年間など大沢のほたるの里三鷹村の村民として、田んぼの活動に参加、里山づくりを大切にしています。
 母 元幼稚園教諭、父 自衛官（歯科医官）の元に生まれる。



まちづくり
まちづくりで三鷹を新しく 三鷹台駅前、北野外環道工事跡地、連雀通り商店街

三鷹台駅前は、町の活性化に向けて、今まさに再整備を進めようとしている地域です。また北野は、外環道の工事が終わった先には、跡地の利用整備がある地域です。連雀通り商店街の通りでは、拡幅工事の準備が少しずつ進んでいます。住民が地域の活用方法を提案して、住民自らが再整備後のまちの機能の細かな部分を決めていく、そういうまちづくりが重要です。

"地域の声を町の形に"
 三鷹駅前再開発、国立天文台敷地と大沢地域の公共施設、井口特設グラウンドも。



地域
地域を大切にしながら三鷹を新しく

私は大沢の田んぼの活動にも参加してきました。ほたる鑑賞会と丸池田んぼの活動には、わずかながらの手伝い参加を致しました。(大沢の田んぼには、2017年には1年を通して参加) 地域の里山活動の継続には、新規の参加者が必要です。里山活動の新規参加について、地域と市でもう少し知恵を出しあって、新人参加につながる情報発信が必要です。



交通政策
交通施策で、三鷹を新しく バス、自転車

三鷹市民にとって、バスと自転車は生活を支えるインフラです。例えばバスの時刻表を市の広報配布と共に配るなど、市民の手に配るような取り組みをすれば、利用率が上がるとも期待できないでしょうか。市民の生活の支えには自転車もあります。しかし自転車は、走行ルールが「車道を走る」と基本が徹底されることになり、逆走や路地からの飛び出し、路地への右折など、危険がいつぱいの状況になってしまいました。子供だけでなく大人も、新しい自転車「安全運転」を学ばねばなりません。例えば、自転車講習会への参加でもらさき商品券を買えるといったような施策を実施して、市民の命を守りたいと私は思っています。

中原
中原の商業を再度の活性化で、三鷹を新しく

中原地域の商業振興
 中原地域では商業のご事業のご閉店があり、商店が減っています。いま一度、中原地域の活性化に取り組むべきではないでしょうか。JR三鷹駅や三鷹台駅からは距離があり、京王線と調布のご利用も多い中原。中原の内側で魅力あるまちづくりを活性化できれば、生活安心のまち三鷹につながると信じています。

都市農業
都市農業と緑地(グリーンインフラ)で三鷹を新しく


緑地を市民生活に不可欠なインフラなのだ、「グリーンインフラ」として捉え、また三鷹のブランド戦略として緑地の充実に取り組むことが重要です。例えば、写真の新川丸池の里での手法は、三鷹市が緑地を林地に限らず保存した事例です。この応用や、災害備蓄用農作物生産での農地利用などなど、農業者の方々を交えた市民のアイデアで緑地の確保に取り組みたいと思います。



公園
憩いの空間で三鷹を新しく


写真は上連雀 9 丁目の広場です。小規模の公園にも、防災ベンチとテーブルを整備すれば、井戸端会議の場になります。健康長寿や子育てで世代の安心の増進のために、外で気軽に使える設備が重要です。公園でのお友達とのゆるやかな交流が地域の輪になります。

井口グラウンドの再整備
 その半面については、広く芝生の広場になれば、スポーツ利用もピクニックもできますよね。



大沢
地域の声で大沢地域を新しく


大沢地域には買い物支援の取り組みや(「とくし丸」など)、デマンド交通の実験、国立天文台の敷地利用、野川調整池の拡張工事など、取り組みが様々な進みつつあります。地域の声には、野川の増水への懸念と高齢者避難の迅速性の懸念といった防災重視の声や、生鮮品の買い物の場が近くに無い不便さ解消の声、公共交通の利便性向上の要望などがあります。こうした地域の声に対応するには、課題を掘り下げ・掘り下げ、最後の最後の砂粒ひとつのところまで本質を探らなければなりません。いちアイデアとして私の政策提言を考えると、例えば、週末土曜や日曜の午前中などに、大沢コミュニティセンターの広場で「朝市」を実施するのは幾らかの課題改善につながるのではないのでしょうか。日常生活目線の考え方で、力を合わせて、大沢地域をより良くしていきませんか。




防災
防災で三鷹を新しく 福祉施設の電源対策、発災の時期時間想定ごとの対応整備、ペット動物の避難整備の理解促進、大災害時人権規律対策の整備

三鷹市内の防災訓練は活発で、既に様々なノウハウが蓄積しています。しかし現実を見据えると、まだどうしても整備が必要な事項があります。4つあり、①福祉施設の電源対策、②発災の時期・時間想定ごとの対応整備、③ペット動物の避難整備の理解促進、④大災害時人権規律対策の整備です。

- ①事例として、2022年3月17日宮城・福島発生地震の震度6強の地震があり、三鷹市内でも停電がありました。医療機器継続のため、福祉施設の電源対策が必要です。
- ②例えば、農地を一時避難場所として災害時にしっかり利用できるようなにも、農作物との関係で、季節ごとの防災プランが必要です。
- ③ペットと生活しているご家庭は、たとえ大災害であっても、ペットを置き去りにして自分だけ助かろうという思いの方はまずいません。避難所でのペット保護整備は、人間を守ることに直結するのです。
- ④残念なことではありますが、避難所生活が始まると、仮設トイレ周辺の性犯罪など、人権を侵害する犯罪が発生するのが実際です。いつも信頼していた隣人を加害者に交差させてしまわないためにも、例えば、女性の消防団団員の加入環境の整備も目指すべきだと思います。



佐藤きいち郎 後援会 入会申し込み

フリガナ	
お名前	
ご住所	〒 -
お電話番号	

佐藤 帰一郎
 住所：〒181-0012 三鷹市上連雀2-5-20 プチ・ロアジス202号室
 電話：080-6529-0562 e-mail：taikorugby@gmail.com (記入して写真をメール添付 または メール本文に記載してご連絡ください)